

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらりはーと平塚OSC (平塚キッズ)		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		2026年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○多様なプログラムによる興味への訴求や潜在ニーズの発掘 【運動・音楽・英語・言語・楽器】と週1回の利用でもひと月の中で様々なメインプログラムを実施することで興味の幅を広げたり得意なことを見つけられる。	様々な活動を通じて子ども達の「できた」を大切にしており、子ども達が自主的にやりたくなるような雰囲気作りを行っている。 静と動の活動を効率よく組み合わせることにより集中しやすい構造作りを行っている。	一人一人が主体的に児童の様子を捉えて、個人の特性にあった支援プログラムの提供を行う為に定期的にプログラム内容の振り返り、改善を実施する。
2	○一人一人に寄り添った支援プログラムの構成 児童に対して多くの職員が配置されており、4時間の活動時間を通じて5領域の支援をじっくりと行うことができる。 日々の活動の中で見られる特性を考慮したプログラム内容の構築。	児童発達支援でニーズの高いADL面に個別対応することで段階に応じた支援を行う。 様々な活動を楽しみながら個人の特性に応じた対応を行うことで社会性やコミュニケーション能力を自然と育んでいく。 肯定的なフィードバックを多く行うことで自己肯定感を高めて自分に自信を持って行動できるように支援している。	職員のスキル向上の為に積極的に外部研修への派遣を実施する。 日々の振り返りの中で児童の様子だけでなく職員の対応方法について共有し支援に繋げていく。
3	○活動の見える化による信頼関係の構築 送迎時の活動報告に加えてスマホ撮影した活動の様子を共有したり、マジックミラー越しの見学を行うことでお子様の自然な様子を保護者に見てもらおう。 SNSを定期的に発信することによる活動の可視化。	保護者と児童の様子を共有することにより常に課題やニーズを更新したり、対応方法の相談共有を実施している。 実際に活動の様子を見学してもらうことにより普段見ることのできないお子様の成長した様子や保護者の意向を個別支援計画に反映している。	デジタルツールの活用範囲を広げるとともに、対面での面談機会をさらに充実させ、家庭と事業所の双方向による一貫した支援体制をより強固にする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○地域社会および関係機関との連携不足 児童発達支援センターや他の福祉サービス事業所、進学時の小学校への情報提供、地域住民との連携・交流が少なく、地域に開かれた運営が十分ではない。	市主導で行われる児童発達支援の構造から受け身の対応に終止してしまい自発的な情報提供を行っていなかった。 地域住民との交流には保護者のニーズやリスクを鑑み慎重になってしまっている。	担当者間での公式チャンネルを構築し気軽に連絡を取り合える関係性を構築する。 就学前カンファレンスへの参加。 児童が地域の中で生きていくことを前提として将来の生活圏を意識した活動の実施。
2	○家族支援プログラムおよび保護者間交流の未実施 ペアレント・トレーニングなどの学習機会や、保護者同士が悩みを共有できる交流会の開催が実行できていない。	昨年度保護者交流の機会は1回に留まり、日々の業務を優先したり具体的な開催に向けての検討が不足していた。	テーマを決めたり、フリーにすることで保護者ニーズに合った会に気軽に参加できる体制の構築。 年間計画で担当者を設定することで職員の意識を向ける。 事前に保護者アンケートを実施して取り上げてほしいテーマや参加しやすい日時を調査する。
3	○デジタルツールの活用機会 イントラネット等による法人内の情報共有の迅速化や職員の意識向上。	デジタルツール活用において、職員のITリテラシーに差があり、十分な活用に至っていない。 デジタルツールは運営に一任してしまっている。 アナログな対応に慣れてしまい変化をすることによる一時的な業務負担を懸念している。	操作手順の簡素化、短時間研修の実施、担当者の明確化、段階的な利用促進を図り、全職員が安心して活用できる環境整備を進める。 管理者が知識を深めることで全体への意識向上を図る。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 きらりはーと平塚OSC(単位2)

公表日 2026年3月5日

利用児童数 2026年2月17日 回収数 34

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	30	1		4		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	28	1		6		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32			2		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	34					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	32	2				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	32	2				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	32			2		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	34					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	34					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	20	3	6	5		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	34				契約時に説明を受けたがその後は無いと思う	変更があれば都度変更同意書と合わせて説明をさせて頂いている。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	33	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	2	6	8		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	34			1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28	4	1	1	こちらが希望すれば助言がある	受け身にならずに定期的に面談以外にお話を聞く時間を作っていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	34					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13	5	7	8	保護者同士でお話出来るお茶会は一度ありました。兄弟向けのイベントはありません。	茶話会を定期的に行いたい。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28	3		4		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	34					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	28	2		4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	34					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	28	2		4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24	1	1	9		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	32	2				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30	2		2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	33	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	30	3			通所日の幼稚園の予定(前日に担任からお知らせされるため)やお友達と遊ぶ約束などにより、行き渋りが時々見られる。楽しみに行く日もある。最近幼稚園がいいと言います。	お友達とお約束をして、園に行くのが楽しいと感じることに成長を感じる。事業所としては来所してくれた際には楽しく過ごせるように子ども達を中心とした考えの元に活動を提供していきたい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	33	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	きらはーと平塚OSC (単位2)		公表日 2026年3月5日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	顔写真やイラスト等を使用して視覚的に認識しやすい構造を作成している。事業所内はバリアフリーに対応できていない。	構造上バリアフリーに対応できない箇所がある。それ以外は子ども達が過ごしやすいイラスト化等資格情報でわかりやすくする。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		出社時の清掃や、使用後の消毒を行っている。飲食で使用するテーブルを製作で使用する際にはクロスを使用したり清潔な状態を保てるようにしている。	段差等大人が意識しない所にも意識を向けてリスク管理を行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		簡易的なパーテーションを使用したり、児童によっては事務所や相談室を個別に使用することで気持ちを落ち着かせたり、集中しやすい環境をつくっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	業務改善という点では主体性がなく受け身になってしまう場合が多い	管理者主導ではなく業務に対する意見を気軽に言い合える機会を作っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	子どもの支援に繋がる相談や評価は実施するが業務改善へ繋がっているかはわからない。	必要な業務改善は積極的に行っていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	主体性を持たずに受け身になってしまうことが多い。	職員から意見が出た際には積極的に改善に向けて動く。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	行っていない	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		以前受けた研修の様にまた受けたい。	外部研修を把握し職員に情報提供を行ったり、職員がスキルアップの為に研修を希望した際には積極的に派遣を行う。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		職員でMTを行い支援の方向性を決定したり方針を共有している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		必ずMTを行い、原案から必要があれば修正をしている。日々児童の課題や対応方針を職員ですり合わせてから支援にあたっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		能力を活かせるような環境設定を行っている。見通しの確保や物理的な工夫を行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		大きなプログラムの枠を法人全体で決めた後、実際にどんなことをやるかは事業の職員で意見を出して決定している。	立案が直前になり修正する時間が少ないことがあるので早めに準備を進めていく。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	日々子ども達を楽しめるように前年の活動を参考にしながらも新しいものを取り入れて固定化しないように努めている。	常に子ども達の目線に立ち、ワクワクするような活動を提供していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	原則、集団活動を行いながらも児童の発達段階や特性に応じて個別で実施する計画を作成し実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	毎朝実施している。連携には課題もあるが徐々に改善してきている。	目の前の事に集中してしまい周りが見えなくなることがあるので職員間で声を掛け合っ子ども達が集中しやすい環境になるよう連携する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	記録を取りながら個人で気が付いた新たな発見や成長、構造的な課題や今後の方針を共有する機会が多い。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	活動内容や5領域の視点から記録をとり過去との比較がしやすくなっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	児発管が園への訪問をしてモニタリング・カンファレンスを実施している。電話で情報の共有や園での過ごし方を確認している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	移行時の情報共有は行っていない。情報共有の機会がないので、そういった場を設けても良いと思う。	移行時には子どもの特性の共有を行い、子どもにとって過ごしやすい環境となるように対応する。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	事業所としてはないが法人のイベントでは活動する機会がある。併行利用の児童だけなので必要性を感じない。	保護者の考えもあるので慎重に検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	母子分離で行っており、自宅では自然体で接してほしいことから行っていない。保護者からの相談等あれば情報提供等を行うが研修はない。	地域情報等積極的に発信していく。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		子ども自らが意向を言える子はほとんどいないが、保護者とは定期的な見学・面談を通じて意向の聞き取り計画への反映を行っている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		計画作成後は職員間で共有をして全員が説明を行える。 必ず保護者の同意をもらって実施している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		定期的見学・面談を行っている。 必要に応じて送迎時や電話連絡を行い実施している。	定期的面談だけでなく適宜行っていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		昨年茶話会を試みた。	定期的に希望する保護者が情報交換できる場を設けていきたい
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		職員間で解決できない相談については速やかに上司に報告している。	些細な事でも1人で情報を止めずに全員で共有して然るべき対応をとっていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		活動の年間行事表を配布している。 隔週でSNSを活用し実際の活動の様子を保護者に発信している。 日々の活動も動画撮影することで送迎時に保	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	周知徹底、訓練実施は行っているが不安がある。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		重篤なアレルギーの児童がいない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	2	安全への配慮は常に行っているが安全計画と照らし合わせると不安がある	定期的に計画の見直しや共有を行い安全管理に努める。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		法人で定期的な研修を実施している	定期的な研修以外にも日々ケースを想定して話を行う。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5				